

NETWORK DEVICE AND DEVICE SHARING METHOD

Publication number: JP2004078359

Publication date: 2004-03-11

Inventor: SHIRATO MASAYUKI; WATANABE AKINORI

Applicant: NIIGATA CANOTEC CO INC

Classification:

- international: G06F13/00; H04L12/56; G06F13/00; H04L12/56; (IPC1-7): G06F13/00; H04L12/56

- european:

Application number: JP20020234955 20020812

Priority number(s): JP20020234955 20020812

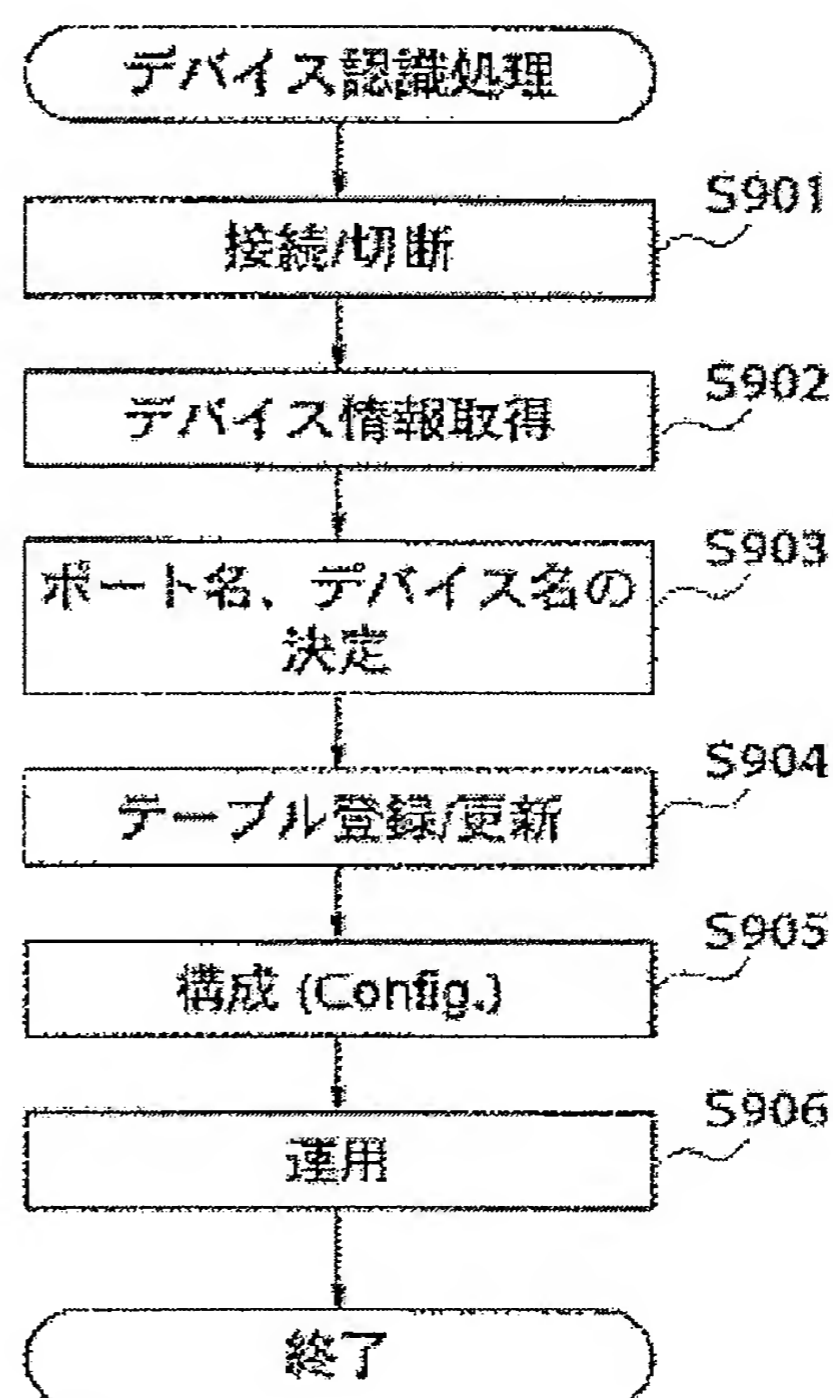
Report a data error here

Abstract of JP2004078359

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a network device allowing a plurality of devices to be easily connected to a network at low cost, and the devices to be easily shared between terminals on the network, and a device sharing method.

SOLUTION: This network device comprises a CPU 101, a radio LAN card 105, a card slot 106, a LAN interface 111, a USB host controller 113, and two USB ports 112. In various types of network systems by an ad hoc mode, an infrastructure mode, a wire print server mode, and a radio LAN access point mode, the network device is connected to various types of devices such as a printer 304 and a hard disk 325 through a USB, and the various types of the connected devices are set so as to be shared among a plurality of clients 301 on the network system.

COPYRIGHT: (C)2004,JPO



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-78359

(P2004-78359A)

(43) 公開日 平成16年3月11日(2004. 3. 11)

(51) Int.Cl. ⁷	F I	テーマコード (参考)
G 0 6 F 13/00	G O 6 F 13/00 3 5 7 A	5 B 0 8 9
H 0 4 L 12/56	H O 4 L 12/56 B	5 K 0 3 0

審査請求 未請求 請求項の数 20 O L (全 22 頁)

(21) 出願番号 特願2002-234955 (P2002-234955) (22) 出願日 平成14年8月12日 (2002. 8. 12)	(71) 出願人 500232640 新潟キヤノテック株式会社 新潟県新潟市米山1丁目24番地 (74) 代理人 100081880 弁理士 渡部 敏彦 (72) 発明者 白戸 正幸 新潟県新潟市米山1丁目24番地 新潟キヤノテック株式会社内 (72) 発明者 渡辺 昭則 新潟県新潟市米山1丁目24番地 新潟キヤノテック株式会社内 Fターム(参考) 5B089 GA00 GA23 HA06 HA17 JB15 KA11 KB04 KC15 MB05 5K030 GA11 HA08 HC13 JT02 KA04 MD06
(特許庁注：以下のものは登録商標) Windows Unix	

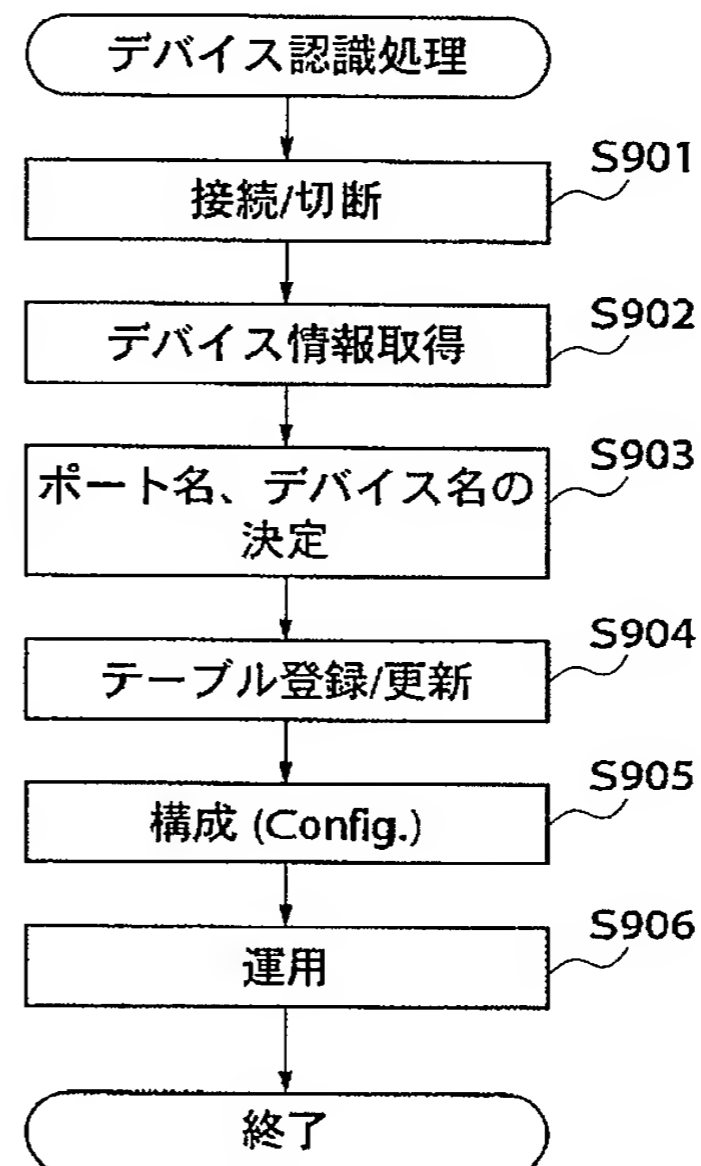
(54) 【発明の名称】 ネットワーク装置、及びデバイスの共有方法

(57) 【要約】

【課題】本発明は、複数のデバイスを低コストで簡単にネットワークに接続することができ、当該デバイスをネットワーク上の端末で容易に共有することができるネットワーク装置、及びデバイスの共有方法を提供する。

【解決手段】本ネットワーク装置は、CPU101と、無線LANカード105と、カードスロット106と、LANインターフェース111と、USBホストコントローラ113と、2つのUSBポート112とを備え、アドホックモード、インフラストラクチャモード、有線プリントサーバモード、及び無線LANアクセスポイントモード等による各種ネットワークシステムにおいて、プリンタ304やハードディスク325等の各種デバイスとUSBにより接続し、当該接続された各種デバイスをネットワークシステム上の複数のクライアント301等で共有可能に設定する。

【選択図】 図8



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

無線によるネットワーク及び有線によるネットワークの少なくとも一方に接続する第 1 の接続手段と、USB (Universal Serial Bus) を介して所定の機能を有するデバイスに接続する第 2 の接続手段とを備えるネットワーク装置において、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末と前記第 2 の接続手段に接続されたデバイスとの接続を所定の管理テーブルに基づいて制御する制御手段を備えることを特徴とするネットワーク装置。

【請求項 2】

前記制御手段は、前記デバイスが前記第 2 の接続手段に接続されたときは、当該接続されたデバイスに関するデバイス情報を取得し、取得したデバイス情報に基づいて前記所定の管理テーブルへの情報の登録及び前記所定の管理テーブルに登録された情報の更新の少なくとも 1 つを行うことを特徴とする請求項 1 記載のネットワーク装置。

10

【請求項 3】

前記デバイス情報は、少なくとも前記デバイスのモデル名を含むことを特徴とする請求項 2 記載のネットワーク装置。

【請求項 4】

前記制御手段は、前記所定の管理テーブルに基づいて前記接続に必要な設定を実行することを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載のネットワーク装置。

【請求項 5】

前記接続に必要な設定には、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末に前記第 2 の接続手段に接続されたデバイスのデバイスドライバをインストールすることを含むことを特徴とする請求項 4 記載のネットワーク装置。

20

【請求項 6】

前記制御手段は、前記デバイスのうち記憶手段を有するものが前記第 2 の接続手段に接続されたときは、当該記憶手段を前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末で共有可能に設定することを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載のネットワーク装置。

【請求項 7】

前記制御手段は、前記第 2 の接続手段に接続されたデバイスの記憶手段に格納されたファイルを共有可能に設定することを特徴とする請求項 6 記載のネットワーク装置。

30

【請求項 8】

前記制御手段は、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末より受信したデータを前記記憶手段に一時格納することを特徴とする請求項 6 又は 7 記載のネットワーク装置。

【請求項 9】

前記制御手段は、前記デバイスのうち印刷機能を有するものと記憶手段を有するものとが前記第 2 の接続手段に接続されたときは、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末より受信したデータを前記記憶手段に一時格納することを特徴とする請求項 8 記載のネットワーク装置。

40

【請求項 10】

前記制御手段は、前記デバイスが前記第 2 の接続手段より取り外されたときは、前記所定の管理テーブルに登録された当該デバイスに関する情報を削除することを特徴とする請求項 1 乃至 9 のいずれか 1 項に記載のネットワーク装置。

【請求項 11】

無線によるネットワーク及び有線によるネットワークの少なくとも一方に接続する第 1 の接続手段と、USB (Universal Serial Bus) を介して所定の機能を有するデバイスに接続する第 2 の接続手段とを備えるネットワーク装置のデバイスの共有方法において、

前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末と前記第 2 の接続手段に接続され

50

たデバイスとの接続を所定の管理テーブルに基づいて制御する制御工程を備えることを特徴とするデバイスの共有方法。

【請求項 1 2】

前記制御工程は、前記デバイスが前記第 2 の接続手段に接続されたときは、当該接続されたデバイスに関するデバイス情報を取得し、取得したデバイス情報に基づいて前記所定の管理テーブルへの情報の登録及び前記所定の管理テーブルに登録された情報の更新の少なくとも 1 つを行うことを特徴とする請求項 1 1 記載のデバイスの共有方法。

【請求項 1 3】

前記デバイス情報は、少なくとも前記デバイスのモデル名を含むことを特徴とする請求項 1 2 記載のデバイスの共有方法。

【請求項 1 4】

前記制御工程は、前記所定の管理テーブルに基づいて前記接続に必要な設定を実行することを特徴とする請求項 1 1 乃至 1 3 のいずれか 1 項に記載のデバイスの共有方法。

【請求項 1 5】

前記接続に必要な設定には、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末に前記第 2 の接続手段に接続されたデバイスのデバイスドライバをインストールすることを含むことを特徴とする請求項 1 4 記載のデバイスの共有方法。

【請求項 1 6】

前記制御工程は、前記デバイスのうち記憶手段を有するものが前記第 2 の接続手段に接続されたときは、当該記憶手段を前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末で共有可能に設定することを特徴とする請求項 1 1 乃至 1 5 のいずれか 1 項に記載のデバイスの共有方法。

【請求項 1 7】

前記制御工程は、前記第 2 の接続手段に接続されたデバイスの記憶手段に格納されたファイルを共有可能に設定することを特徴とする請求項 1 6 記載のデバイスの共有方法。

【請求項 1 8】

前記制御工程は、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末より受信したデータを前記記憶手段に一時格納することを特徴とする請求項 1 6 又は 1 7 記載のデバイスの共有方法。

【請求項 1 9】

前記制御工程は、前記デバイスのうち印刷機能を有するものと記憶手段を有するものとが前記第 2 の接続手段に接続されたときは、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末より受信したデータを前記記憶手段に一時格納することを特徴とする請求項 1 8 記載のデバイスの共有方法。

【請求項 2 0】

前記制御工程は、前記デバイスが前記第 2 の接続手段より取り外されたときは、前記所定の管理テーブルに登録された当該デバイスに関する情報を削除することを特徴とする請求項 1 1 乃至 1 9 のいずれか 1 項に記載のデバイスの共有方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ネットワーク装置、及びデバイスの共有方法に関し、特に、無線によるネットワーク及び有線によるネットワークの少なくとも 1 つに接続され、プリンタやハードディスク等の所定の機能を有するデバイスを接続することにより当該ネットワークを介して印刷データやファイルを共有するネットワーク装置、及びデバイスの共有方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、ユーザが LAN (Local Area Network) や WAN (Wide Area Network) 等のネットワークに接続されたプリンタを複数のクライアントコンピュータ (以下、単に「クライアント」という。) やサーバコンピュータを利用す

10

20

30

40

50

るシステムにおいて、当該ネットワークに接続されたプリンタが1台のみの場合、複数のクライアントからの印刷要求が1台のプリンタに集中すると、印刷待ち状態が続いて迅速な印刷処理が実行できなくなるおそれがある。このため、複数のプリンタをネットワークに接続して利用することが一般的に行われている。

【0003】

【発明が解決しようとしている課題】

しかしながら、上記従来のシステムでは、複数のプリンタをネットワークに接続して利用する場合、ネットワーク対応（インターフェース内蔵）のプリンタを複数用意する必要があり、ネットワーク非対応のプリンタしか無いときには、プリンタの台数分のLANボードやLANカード等のインターフェースを用意しなければならず、多くのコストがかかることになる。

10

【0004】

一方、複数のプリンタをネットワークに接続する場合、ネットワーク接続に関する設定をプリンタ毎に行う必要があり、専門的な知識を有しないユーザにとって負担が大きい。

【0005】

また、ユーザには、ネットワーク上でプリンタ以外にもハードディスクやスキャナ等の所定の機能を有する周辺機器（デバイス）を低コストで、且つ簡単な設定で共有したいという要求がある。

【0006】

そこで、本発明は、上記課題に鑑みて成されたものであり、複数のデバイスを低コストで簡単にネットワークに接続することができ、当該デバイスをネットワーク上の端末で容易に共有することができるネットワーク装置、及びデバイスの共有方法を提供することを目指す。

20

【0007】

また、接続ケーブルの挿抜や繋ぎ替え、電源のオン／オフ等により、ネットワーク装置とデバイスとの接続状態が変化した場合であっても、その接続状態の変化をユーザに意識させることなく、デバイスを継続して使用可能とするネットワーク装置、及びデバイスの共有方法を提供することを目指す。

【0008】

【課題を解決するための手段】

30

上記目的を達成するために、請求項1記載のネットワーク装置は、無線によるネットワーク及び有線によるネットワークの少なくとも一方に接続する第1の接続手段と、USB（Universal Serial Bus）を介して所定の機能を有するデバイスに接続する第2の接続手段とを備えるネットワーク装置において、前記第1の接続手段に接続されたネットワーク上の端末と前記第2の接続手段に接続されたデバイスとの接続を所定の管理テーブルに基づいて制御する制御手段を備えることを特徴とする。

【0009】

請求項2記載のネットワーク装置は、請求項1記載のネットワーク装置において、前記制御手段は、前記デバイスが前記第2の接続手段に接続されたときは、当該接続されたデバイスに関するデバイス情報を取得し、取得したデバイス情報に基づいて前記所定の管理テーブルへの情報の登録及び前記所定の管理テーブルに登録された情報の更新の少なくとも1つを行うことを特徴とする。

40

【0010】

請求項3記載のネットワーク装置は、請求項2記載のネットワーク装置において、前記デバイス情報は、少なくとも前記デバイスのモデル名を含むことを特徴とする。

【0011】

請求項4記載のネットワーク装置は、請求項1乃至3のいずれか1項に記載のネットワーク装置において、前記制御手段は、前記所定の管理テーブルに基づいて前記接続に必要な設定を実行することを特徴とする。

【0012】

50

請求項 5 記載のネットワーク装置は、請求項 4 記載のネットワーク装置において、前記接続に必要な設定には、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末に前記第 2 の接続手段に接続されたデバイスのデバイスドライバをインストールすることを含むことを特徴とする。

【0013】

請求項 6 記載のネットワーク装置は、請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載のネットワーク装置において、前記制御手段は、前記デバイスのうち記憶手段を有するものが前記第 2 の接続手段に接続されたときは、当該記憶手段を前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末で共有可能に設定することを特徴とする。

【0014】

請求項 7 記載のネットワーク装置は、請求項 6 記載のネットワーク装置において、前記制御手段は、前記第 2 の接続手段に接続されたデバイスの記憶手段に格納されたファイルを共有可能に設定することを特徴とする。

【0015】

請求項 8 記載のネットワーク装置は、請求項 6 又は 7 記載のネットワーク装置において、前記制御手段は、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末より受信したデータを前記記憶手段に一時格納することを特徴とする。

【0016】

請求項 9 記載のネットワーク装置は、請求項 8 記載のネットワーク装置において、前記制御手段は、前記デバイスのうち印刷機能を有するものと記憶手段を有するものとが前記第 2 の接続手段に接続されたときは、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末より受信したデータを前記記憶手段に一時格納することを特徴とする。

【0017】

請求項 10 記載のネットワーク装置は、請求項 1 乃至 9 のいずれか 1 項に記載のネットワーク装置において、前記制御手段は、前記デバイスが前記第 2 の接続手段より取り外されたときは、前記所定の管理テーブルに登録された当該デバイスに関する情報を削除することを特徴とする。

【0018】

上記目的を達成するために、請求項 11 記載のデバイスの共有方法は、無線によるネットワーク及び有線によるネットワークの少なくとも一方に接続する第 1 の接続手段と、USB (Universal Serial Bus) を介して所定の機能を有するデバイスに接続する第 2 の接続手段とを備えるネットワーク装置のデバイスの共有方法において、前記第 1 の接続手段に接続されたネットワーク上の端末と前記第 2 の接続手段に接続されたデバイスとの接続を所定の管理テーブルに基づいて制御する制御工程を備えることを特徴とする。

【0019】

請求項 12 記載のデバイスの共有方法は、請求項 11 記載のデバイスの共有方法において、前記制御工程は、前記デバイスが前記第 2 の接続手段に接続されたときは、当該接続されたデバイスに関するデバイス情報を取得し、取得したデバイス情報に基づいて前記所定の管理テーブルへの情報の登録及び前記所定の管理テーブルに登録された情報の更新の少なくとも 1 つを行うことを特徴とする。

【0020】

請求項 13 記載のデバイスの共有方法は、請求項 12 記載のデバイスの共有方法において、前記デバイス情報は、少なくとも前記デバイスのモデル名を含むことを特徴とする。

【0021】

請求項 14 記載のデバイスの共有方法は、請求項 11 乃至 13 のいずれか 1 項に記載のデバイスの共有方法において、前記制御工程は、前記所定の管理テーブルに基づいて前記接続に必要な設定を実行することを特徴とする。

【0022】

請求項 15 記載のデバイスの共有方法は、請求項 14 記載のデバイスの共有方法において

10

20

30

40

50

、前記接続に必要な設定には、前記第1の接続手段に接続されたネットワーク上の端末に前記第2の接続手段に接続されたデバイスのデバイスドライバをインストールすることを含むことを特徴とする。

【0023】

請求項16記載のデバイスの共有方法は、請求項11乃至15のいずれか1項に記載のデバイスの共有方法において、前記制御工程は、前記デバイスのうち記憶手段を有するものが前記第2の接続手段に接続されたときは、当該記憶手段を前記第1の接続手段に接続されたネットワーク上の端末で共有可能に設定することを特徴とする。

【0024】

請求項17記載のデバイスの共有方法は、請求項16記載のデバイスの共有方法において、前記制御工程は、前記第2の接続手段に接続されたデバイスの記憶手段に格納されたファイルを共有可能に設定することを特徴とする。

10

【0025】

請求項18記載のデバイスの共有方法は、請求項16又は17記載のデバイスの共有方法において、前記制御工程は、前記第1の接続手段に接続されたネットワーク上の端末より受信したデータを前記記憶手段に一時格納することを特徴とする。

【0026】

請求項19記載のデバイスの共有方法は、請求項18記載のデバイスの共有方法において、前記制御工程は、前記デバイスのうち印刷機能を有するものと記憶手段を有するものとが前記第2の接続手段に接続されたときは、前記第1の接続手段に接続されたネットワーク上の端末より受信したデータを前記記憶手段に一時格納することを特徴とする。

20

【0027】

請求項20記載のデバイスの共有方法は、請求項11乃至19のいずれか1項に記載のデバイスの共有方法において、前記制御工程は、前記デバイスが前記第2の接続手段より取り外されたときは、前記所定の管理テーブルに登録された当該デバイスに関する情報を削除することを特徴とする。

【0028】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態に係るネットワーク装置を図面を参照して説明する。

【0029】

図1は、本発明の実施の形態に係るネットワーク装置のハードウェア構成を示すブロック図であり、図2は図1のネットワーク装置の外観図である。

30

【0030】

図1及び図2において、本発明の実施の形態におけるネットワーク装置は、有線ネットワーク及び／又は無線ネットワークに接続されるプリントサーバ100から成り、それら有線／無線ネットワークを介してクライアントコンピュータ（以下、単に「クライアント」という。）やサーバコンピュータ（以下、単に「サーバ」という。）に接続される。

【0031】

プリントサーバ100は、CPU101と、ROM102と、RAM103と、Logic104と、カードスロット106と、フッシュスイッチ107と、LED（Light Emitting Diode）108と、I/Oインターフェース109と、LANポート110と、LANインターフェース111と、USB（Universal Serial Bus）ポート112と、USBホストコントローラ113と、電源コネクタ114と、電源ユニット115と、これら各部を互いに接続するシステムバス116とを備える。

40

【0032】

CPU101は、所定のプログラムやUSBドライバを読み出して実行すると共に、プリントサーバ100全体の制御を行う。ROM102は、USBドライバと共にCPU101により実行される所定のプログラムを格納する。

【0033】

50

R A M 1 0 3 は、C P U 1 0 1 により実行されるプログラムの各種データを一時格納する。L O g i c 1 0 4 は、プリントサーバ 1 0 0 の動作制御を行うと共に、当該プリントサーバ 1 0 0 に接続される不図示のプリンタやストレージ (s t o r a g e) 等の周辺機器 (デバイス) の制御を行う制御回路である。

【 0 0 3 4 】

カードスロット 1 0 6 は、無線 L A N カード (W L A N) 1 0 5 を装着するためのスロット (挿入口) である。無線 L A N カード 1 0 5 は、無線による送受信機能 (無線 L A N 機能) を有し、I E E E 8 0 2 . 1 1 b (2 . 4 G H z 帯 / データ伝送速度 1 1 M b p s) 等の標準プロトコル仕様に対応したものである。無線 L A N カード 1 0 5 のプロトコル仕様は、他の規格、即ち I E E E 8 0 2 . 1 1 a や I E E E 8 0 2 . 1 1 g 等であってもよい。無線 L A N カード 1 0 5 は、P C M C I A (P e r s o n a l C o m p u t e r M e m o r y C a r d I n t e r n a t i o n a l A s s o c i a t i o n) と日本電子工業振興協会 (J E I D A) が共同で策定した P C カードの規格である『 P C C a r d S t a n d a r d 』に準拠したものであるが、これに限定されるものではない。

10

【 0 0 3 5 】

本実施の形態では、無線 L A N カード 1 0 5 をカードスロット 1 0 6 に装着することにより無線による L A N 機能を利用しているが、この無線による L A N 機能を予めプリントサーバ 1 0 0 に内蔵するようにしてもよい。無線 L A N カード 1 0 5 は、印刷やストレージ共有、プリントサーバ 1 0 0 の設定変更等のクライアントからの要求を不図示の無線ネットワーク経由で受け付ける。

20

【 0 0 3 6 】

また、上述した I E E E 8 0 2 . 1 1 b 等の無線通信仕様は、パーソナルコンピュータや P D A (P e r s o n a l D i g i t a l A s s i s t a n t) 、携帯電話、その他のポータブル機器との間をつなぐ目的で策定された短距離無線伝送技術仕様である B l u e t o o t h (登録商標) 等に置き換えられてもよいし、複数の無線通信仕様が共存し、用途に応じて切り替えて無線接続が実現できるように構成されていてもよい。

【 0 0 3 7 】

I / O インターフェース 1 0 9 は、S W 1 , S W 2 から成る 2 つのフッシュスイッチ 1 0 7 と、L E D 1 0 8 と、ジャンプスイッチ (不図示) とを備える。フッシュスイッチ 1 0 7 は、プリントサーバ 1 0 0 の起動モードの切替や各種デバイスのマウント / ディスマウントの実行、プリンタ接続時のテストプリント等のためにユーザが操作可能なスイッチ群である。なお、これらのスイッチ群はプリントサーバ 1 0 0 本体に備えるのではなく、ソフトウェアで構成して、クライアントから専用のソフトウェアで操作させるようにしてもよい。

30

【 0 0 3 8 】

L E D 1 0 8 は、5 つの L E D の点灯 / 消灯 / 点滅によってプリントサーバ 1 0 0 の動作状態や通信状況等を表示する。

【 0 0 3 9 】

L A N ポート 1 1 0 は、不図示の有線ネットワークに接続するための R J - 4 5 形式の L A N ポートであり、印刷やストレージ共有、プリントサーバ 1 0 0 の設定変更等のクライアントからの要求を有線ネットワーク経由で受け付ける。L A N インターフェース 1 1 1 は、L A N ポート 1 1 0 を介して有線ネットワークに接続するための 1 0 B a s e - T 、 1 0 0 B a s e - T X の E t h e r n e t (登録商標) 規格準拠の有線ネットワークインターフェースであるが、他の規格、例えば、F D D I (F i b e r - D i s t r i b u t e d D a t a I n t e r f a c e) や T o k e n R i n g 、 G i g a b i t E t h e r n e t 等に準拠するものであってもよい。

40

【 0 0 4 0 】

U S B ホストコントローラ 1 1 3 は、U S B 仕様に準拠した U S B ポート 1 1 2 を介してプリンタ、ストレージ等の各種デバイスに U S B により接続し、各種デバイスの同時使用を可能に制御するものである。U S B ポート 1 1 2 は、U S B ポートを有するプリンタや

50

ストレージ等の各種デバイスと接続するためのインターフェースである。本実施の形態では、2つのUSBポート112を備えることで、プリンタやストレージ等の各種デバイスを2台接続し、且つ同時に使用することが可能である。また、USBハブを使用することにより2台以上のデバイスとの接続が可能である（なお、最大接続数はUSB仕様に準ずる）。

【0041】

電源ユニット115は、電源コネクタ114に接続されたACアダプタ（不図示）を介してプリントサーバ100内の各部に電源を供給する。

【0042】

プリントサーバ100は、後述するアドホック（AdHoc）モード、インフラストラクチャ（Infrastructure）モード、有線プリントサーバモード、及び無線LANアクセスポイントモードの4つの通信モードの少なくとも1つにより利用される。これらの通信モードは、例えば、クライアント側でユーティリティソフトウェア（以下、単に「ユーティリティ」という。）等の設定ツールを利用して選択することができる。なお、プリントサーバ100は、上記4つの通信モードに限られず、他の通信モードで利用されてもよいことは言うまでもない。

【0043】

図3は、図1のプリントサーバ100を含むアドホック（AdHoc）モードによるシステムの一例を示す構成図であり、（a）はプリントサーバにプリンタを1台接続した場合、（b）はプリンタを2台接続した場合を示す。

【0044】

アドホックモードとは、有線ネットワークに接続されたアクセスポイントを介さずに、無線ネットワークに接続された端末同士で通信を行う接続形態である。具体的には、無線LAN機能を備えたクライアントは、プリントサーバと共に無線LANを構成し、プリントサーバに直接アクセスして、当該プリントサーバのUSBポートに接続されたプリンタ等のデバイスに対して印刷ジョブ等の処理命令を与えることができる。

【0045】

図3（a）において、アドホックモードによるシステムは、プリントサーバ100と、プリントサーバ100にUSBポート112を介してUSBケーブルにより接続されたプリンタ304と、プリントサーバ100に無線LANにより接続された複数のクライアントコンピュータであるクライアント301、302、303とで構成される。

【0046】

無線LAN機能を備えたクライアント301、302、303は、プリントサーバ100を介することにより当該プリントサーバ100にUSBにより接続されたプリンタ304と双方向通信を行う。これにより、各クライアント301、302、303は、プリンタ304を共有して印刷を実行させることができ、また、プリンタ304の状態を示すステータス情報を当該プリンタ304より取得することができる。

【0047】

図3（b）において、プリントサーバ100には、USBにより2台のプリンタ304、305が接続されている。クライアント301、302、303は、プリントサーバ100を介して2台のプリンタ304、305と双方向通信を行う。これにより、各クライアント301、302、303は、プリンタ304、305を共有し、当該プリンタ304、305の各ステータス情報を取得して、印刷可能なプリンタに印刷を実行させることができる。

【0048】

図4は、図1のプリントサーバ100を含むアドホック（AdHoc）モードによるシステムの一例を示す構成図であり、（c）はプリントサーバ100に異なるデバイスを2台接続した場合、（d）はUSBハブを介して複数のデバイスを接続した場合を示す。

【0049】

図4（c）において、プリントサーバ100には、USBによりプリンタ304とハード

10

20

30

40

50

ディスク 325 が接続されている。クライアント 301、302、303 は、プリントサーバ 100 を介することによりプリンタ 304 及びハードディスク 325 と双方向通信を行う。これにより、各クライアント 301、302、303 は、プリンタ 304 及びハードディスク 325 を共有し、当該プリンタ 304 に対してステータス情報の要求や印刷ジョブの実行を指示するが、ハードディスク 325 に格納されたデータを有効に利用することが可能となる。

【0050】

図 4 (d) において、プリントサーバ 100 は、USB ハブ 334 を介してプリンタ 304、305、及びハードディスク 325 に接続されている。本実施の形態では、プリントサーバ 100 は本体に USB ポート 112 を 2 つ備えているが、USB ハブ 334 を使用することにより 2 台以上のデバイスとの接続が可能となる（最大接続数は USB 仕様に準ずる）。クライアント 301、302、303 が、プリントサーバ 100 を介してプリンタ 304 やハードディスク 325 等のデバイスを共有する機能は図 3 (a)、図 3 (b)、図 4 (c) と同様である。

10

【0051】

図 5 は、図 1 のプリントサーバ 100 を含むインフラストラクチャ (Infrastructure) モードによるシステムの一例を示す構成図である。インフラストラクチャ (Infrastructure) モードとは、有線ネットワークに接続されたアクセスポイントを介して通信を行う接続形態である。

【0052】

図 5 において、インフラストラクチャモードによるシステムは、プリントサーバ 100 と、プリントサーバ 100 に USB ポート 112 を介して USB ケーブルにより接続されたプリンタ 304、305 と、プリントサーバ 100 に無線により接続されたアクセスポイント 345 と、アクセスポイント 345 と共に有線 LAN 500 に接続された有線 LAN クライアント 341、342、343 と、アクセスポイント 345 に無線 LAN を介して接続された無線 LAN クライアント 344 とで構成される。

20

【0053】

有線 LAN クライアント 341、342、343 及び無線 LAN クライアント 344 は、アクセスポイント 345 を介してプリントサーバ 100 にアクセスすることにより、プリントサーバ 100 に USB で接続されたデバイス、即ちプリンタ 304、305 に対して印刷ジョブ等の処理命令を与えることができる。例えば、有線 LAN クライアント 341 がプリンタ 304、305 の 2 台のステータス情報を取得して、印刷可能な方に印刷を実行させることができる。

30

【0054】

図 6 は、図 1 のプリントサーバ 100 を含む有線プリントサーバモードによるシステムの一例を示す構成図である。

【0055】

図 6 において、有線プリントサーバモードによるシステムは、プリントサーバ 100 と、プリントサーバ 100 に USB ポート 112 を介して USB ケーブルにより接続されたプリンタ 304、305 と、プリントサーバ 100 と共に有線 LAN 500 に接続された有線 LAN クライアント 341、342、343 とから成る。プリントサーバ 100 は、LAN ポート 110 を有するので有線 LAN 500 に直接接続することができる。この場合には、有線 LAN クライアント 341、342、343 は、有線 LAN 500 を介してプリントサーバ 100 にアクセスすることにより、プリントサーバ 100 に USB で接続されたデバイス、即ちプリンタ 304、305 に対して印刷ジョブ等の処理命令を与えることができる。例えば、有線 LAN クライアント 341 がプリンタ 304、305 の 2 台のステータス情報を取得して、印刷可能なプリンタに印刷を実行させることができる。

40

【0056】

図 7 は、図 1 のプリントサーバ 100 を含む無線 LAN アクセスポイントモードによるシステムの一例を示す構成図である。

50

【0057】

図7において、無線LANアクセスポイントモードによるシステムは、プリントサーバ100と、プリントサーバ100にUSBポート112を介してUSBケーブルにより接続されたプリンタ304、305と、プリントサーバ100と共に有線LAN500に接続された有線LANクライアント341、342、343と、プリントサーバ100に無線LANにより接続された複数のクライアント301、302、303とから成る。

【0058】

本システムでは、有線LAN500に接続されたプリントサーバ100自身がアクセスポイントとして機能することにより、有線LANクライアント341、342、343と無線LANクライアント301、302、303の相互アクセスを可能にすると共に、各ク
ライアントからプリントサーバ100にUSBで接続されたデバイスに対して、印刷ジョ
ブ等の処理命令を与えることができる。

10

【0059】

以上、4つの通信モードによるシステム構成例を示したが、図4(c)、図4(d)に示すアドホックモードにおけるハードディスク325やUSBハブ334の接続が、図5、図6、図7に夫々示したインフラストラクチャ(Infrastucture)モード、有線プリントサーバモード、及び無線LANアクセスポイントモードの各通信モードでも適用されることは云々までもない。また、プリントサーバ100に接続されるデバイスとしては、プリンタ、ハードディスクの他に、スキャナや多機能複合機(プリンタ、スキャナ、FAX等として利用可能)、デジタルカメラ、携帯型ステレオ等も考えられる。デ
ジタルカメラ、携帯型ステレオ、又はプリンタにメモ리카ード用のカードスロットが備え
られている場合には、カードスロットに装着されているメモ리카ードをストレージデバイ
スとして認識することもできる。

20

【0060】

また、クライアント301等は、コンピュータのみならず、有線/無線を問わずにネット
ワークに接続可能な端末であれば、PDAや携帯電話であってもよい。

【0061】

次に、プリントサーバ100におけるデバイス認識処理を図8を用いて説明する。

【0062】

図8は、図1のプリントサーバ100におけるデバイス認識処理を示すフローチャートで
ある。本処理は、USBドライバに基づいてCPU101により実行される処理である。

30

【0063】

図8において、CPU101はUSBドライバを実行することによりプリントサーバ100
に対するデバイスやUSBハブ等の接続/切断を検出すると、デバイス認識(管理テー
ブル登録/更新)のフローを開始し(ステップS901)、接続されたデバイスと通信し
て当該デバイスのデバイス情報を取得する(ステップS902)。ここで、プリントサー
バ100に接続されたデバイスが複数である場合は、ステップS901~S902を複数
回繰り返す。

【0064】

ステップS902で取得するデバイス情報とは、ベンダID、プロダクトID、インター
フェースナンバ、インターフェースクラス、シリアルナンバ、ベンダ名、プロダクト名、
デバイスID等のUSB仕様で定義されたディスクリプタ情報である。

40

【0065】

次に、デバイスが接続されたUSBポートのポート名を決定する(ステップS903)。
ここで、USBハブを用いない場合にはプリントサーバ100が備えるポート数が上限値
となる。すなわち、プリントサーバ100が2つのUSBポート112を有するので、ポ
ート名として「ポート1」、「ポート2」がUSBポート112にそれぞれ割り当てられ
る。

【0066】

一方、プリントサーバ100にUSBハブを用いて2つ以上のデバイスを接続する場合に

50

は、U S B ハブのポート数に応じてポート名が再構成され、U S B ハブの各ポートに接続されたデバイスに個別のポート名がそれぞれ割り当てられる。例えば、図 9 に示すように、プリントサーバ 100 が予め備える「ポート 1」に 4 ポートハブが接続された場合には、「ポート 1」は「ポート 1-1」、「ポート 1-2」、「ポート 1-3」、「ポート 1-4」として再構成される。

【0067】

更に、4 ポートハブの「ポート 1-1」に 2 ポートハブが接続された場合には、「ポート 1-1」は「ポート 1-1-1」、「ポート 1-1-2」として再構成されることになる。「ポート 2」に U S B ハブが接続された場合も同様である。なお、最大接続数は U S B 仕様に準じる。

10

【0068】

図 8 に戻って、更に、ステップ S 903 では、プリントサーバ 100 に接続された各デバイスのデバイスドライバを判定して、各デバイスにデバイスドライバに基づく個別のデバイス名が割り当てられる。つづいて、R A M 103 に格納された管理テーブルにポート名、モデル名、及びデバイス名等の情報を登録するか、又は登録された情報の更新を行う（ステップ S 904）。

【0069】

次に、C P U 101 によりプリントサーバ 100 に接続された各デバイスをクライアントから利用可能な状態に設定

（構成）した後（ステップ S 905）、運用開始（ステップ S 906）して本処理を終了する。ここで、クライアントから各デバイスを利用可能な状態に設定する場合、プリントサーバ 100 が各デバイスのデバイスドライバをクライアントにインストールする機能を持たせてもよい。デバイス接続時にインストールが必要となるデバイスドライバを予めプリントサーバ 100 が用意又は取得しておいたり、デバイスドライバがネットワーク上に存在する場合にはその所在をクライアントに通知してインストールさせるようにすると、プリントサーバ 100 にデバイスを接続するだけでクライアントがすぐに該デバイスを使用することができる。

20

【0070】

一方、図 8 のステップ S 901 において、C P U 101 がプリントサーバ 100 に対するデバイスや U S B ハブ等の取り外しや切断を検出した場合には、ステップ S 904 に進み、取り外されたデバイスに関する情報を管理テーブルから削除した後、ステップ S 906 の運用を開始する。これにより、管理テーブルで管理される情報を常に最新に保つことができる。

30

【0071】

図 10 は、図 1 のプリントサーバ 100 における管理テーブルの構成例を示す図である。

【0072】

図 10 において、管理テーブル 1000 は、インデックス (index) 1001 と、ポート名 1002 と、モデル名 1003 と、デバイス名 1004 と、その他の情報 1005 とから成る。

【0073】

インデックス 1001 は、登録されたデバイスに対して 0 から最大値 (max) まで順に付与されるインデックスである。最大値は、U S B 仕様で定まる最大接続数と等しい。ポート名 1002 は、上述した図 8 のステップ S 903 で割り当てられたポート名である。モデル名 1003 は、ステップ S 902 で取得したデバイス情報に含まれるデバイス ID やプロダクト名等より生成される。デバイス名 1004 は、デバイスドライバに基づいてデバイスに割り当てられたデバイス名である。その他の情報 1005 は、上述したベンダ ID、プロダクト ID、シリアルナンバ、デバイス ID、ベンダ名、プロダクト名等の U S B 仕様で定義されたディスクリプタ情報である。この他に、プリントサーバ 100 固有の設定項目などを構成してもよい。なお、管理テーブル 1000 に登録される情報の種類はこれに限定されない。

40

50

【0074】

次に、プリントサーバ100に接続されているデバイスの接続状態が変化した場合の管理テーブル1000の更新状態について図11～図13を参照して説明する。

【0075】

プリントサーバ100において、デバイスの接続状態が変化した場合は、既に登録されている管理テーブル1000の内容を更新する必要がある。このときの状態を示したものが図11～図13である。

【0076】

図11(a)は管理テーブル1000の初期状態を示す。初期状態では、プリントサーバ100が備える2つのUSBポート112に「ポート1」及び「ポート2」のみが登録されている。図11(b)は「ポート1」に2ポートハブが接続された場合を示す。図11(b)では「ポート1」が「ポート1-1」と「ポート1-2」として再構成されている。

10

【0077】

図12(c)に示す管理テーブル1000は、図11(a)の初期状態に対して、2台のプリンタが接続された後の状態を示すものである。本例のように、同一種類のデバイスが接続された場合には、接続順に「/dev/usb/xxx0」、「/dev/usb/xxx1」、・・・といった「デバイス名」が割り当てられる(×××の部分でデバイスの種類を示している)。ここで、デバイスの接続ケーブル等の挿抜や繋ぎ替え、電源オン/オフ等の接続状態の変化によってポートとデバイスとの対応関係が変化した場合には、例えば、図12(c)の状態より図12(d)の状態に管理テーブル1000が更新される。

20

【0078】

図13(e)に示す管理テーブル1000は、図12(c)の状態に対して、「ポート2」に接続されたプリンタ2がプリントサーバ100より外され、代わりに接続されたハードディスク1がモデル名「HDD1」、デバイス名「/dev/usb/yyy0」として認識され、その内容が更新された状態である。

【0079】

更に、図12(c)の状態に対して、「ポート2」に接続されたプリンタ2が外され、代わりに2ポートハブを介して2台のプリンタ2、3が接続された場合には、管理テーブル1000が図13(f)に示す状態に更新される。ここで、外付けのハブではなく、メモ리카ード用のスロットを有するプリンタが接続された場合には、プリンタに内蔵されたハブが認識されることで、外付けのハブが接続された場合と同様にポートが構成され、一方にはプリンタが、他方にはストレージ(メモ리카ード)が登録されることになる。

30

【0080】

また、同じく図12(c)の状態よりポート2に多機能複合機(プリンタ、スキャナ、FAX等として利用可能)が繋がず換えられた場合には、図14に示すように、同一のポート「ポート2」に対して、プリンタ、スキャナ、FAX等の機能ごとに複数のデバイスとして登録されることになる。

【0081】

上述の管理テーブル1000を用いたクライアントからデバイスへのアクセス方法について図15～図18を用いて説明する。本アクセス方法では、図3(b)に示すシステムにおいて、クライアント303がプリントサーバ100を介してプリンタ304に印刷実行を指示する。

40

【0082】

図15において、クライアント303は、所定のアプリケーション1201によりプリントサーバ100に接続されているデバイス一覧を表示する。ユーザは、表示されたデバイス一覧の中から所望のデータやファイルの出力先を選択する。この場合、クライアント303は、デバイスが接続されたプリントサーバ100のポート名1002やデバイス名1004などを意識することなく、最も解り易いモデル名1003で選択することができる。

50

。このとき、表示されるデバイス一覧はプリントサーバ100に接続された全てのデバイスを表示させてもよいし、デバイスタイプ別に一部のデバイスのみ表示させてもよい。

【0083】

例えば、出力先としてプリンタ304を選択したときにクライアント308に表示される画面の一例を図16に示す。図16では、ユーザがプリントサーバ100のIPアドレス1301を指定して接続情報取得ボタン1302をマウス等によりクリックすると、ツリー形式で表示される接続プリンター一覧1303にプリントサーバ100に接続されているデバイスが一覧表示される。

【0084】

表示された接続プリンター一覧1303の中から選択されたプリンタ304（図中の反転表示されたもの）については、プリントサーバ100の管理テーブル1000において該当する情報が呼び出されて、プリンタ情報1304の欄に表示される。ユーザが画面上でOKボタン1306をクリックすることにより出力先のプリンタ304が確定し、該確定されたプリンタ304の情報がクライアント308よりプリントサーバ100に返信される（図15の1208）。ここで、クライアント308よりプリントサーバ100に返信される情報は、ユーザにより指示されたデバイスがどれであるかをプリントサーバ100が特定できるものであればよく、管理テーブル1000で管理する全項目であってもよいし、インデックス1001やモデル名1002、シリアルナンバ等のうちの1つ又は複数の組合せであってもよい。

【0085】

次に、プリントサーバ100は、クライアント308より送信されたプリンタ304の情報をアプリケーションにより受け取り、管理テーブル1000を参照することによりクライアント308より指示されたデバイス（この場合は、プリンタ304）を特定する（図15の1204）。プリントサーバ100内では、特定されたデバイスのデバイス名1003に基づいてUSBデバイスドライバ、USBドライバ、ホストコントローラドライバ、及びホストコントローラ等に処理を受け継ぎ、クライアント308が所望するプリンタ304へのアクセスを実現する。これにより、接続ケーブルの挿抜や繋ぎ替え、電源のオン／オフ等により、プリントサーバ100とプリンタ304等のデバイスとの接続状態が変化した場合であっても、その接続状態の変化をユーザに意識させることなく、プリンタ403等のデバイスを継続して使用することができる。

【0086】

上述の例では、図16の接続プリンター一覧1303でプリンタを選択するタイミングで、プリントサーバ100の管理テーブル1000のなかから該当するプリンタのデバイス情報を取得するようにしていたが、これに代えてユーザがプリンタを初めて接続した際にプリントサーバ100より当該情報を取得してこれを保持しておくようにしてもよい。この場合、ユーザは、図16の画面を表示するアプリケーションを毎回起動することなく、通常の印刷ダイアログを呼び出して出力先を指定して印刷を実行するだけでよい。

【0087】

なお、上述のモデル名1003は、クライアント毎に、より親しみ易い名前や判別し易い名前に変更することができる。図16において、接続プリンター一覧1303からデバイスを選択し、プリンタ名変更ボタン1305がクリックされると、プリンタ名変更用ダイアログ（不図示）が表示され、プリンタ名の変更が可能となる。但し、この場合、管理テーブル1000に登録されたモデル名を書き換えるのではなく、クライアントが任意に付け直したモデル名と管理テーブルに登録されたモデル名とを対応付けてクライアント側に記憶させておき、アクセス時にこれを参照することによって実現する。

【0088】

ハードディスクやプリンタ（のカードスロット）などのストレージデバイスがプリントサーバ100に接続された場合には、いわゆるSamba（Windows-Unix間の資源共有の為にソフトウェア群）等を利用することにより、ネットワーク上でストレージデバイス内に格納されたファイルやデータの共有が可能となる。デバイス接続時に設定が

10

20

30

40

50

必要となる共有ディレクトリや共有名等の情報を予めプリントサーバ100が用意しておくことにより、プリントサーバ100にデバイスを接続するだけですぐに該デバイスを使用することができるようになる。具体的には、上述した図8のデバイス認識処理において、プリントサーバ100に接続されたデバイスがストレージデバイスであると認識すると、予め用意されていた共有ディレクトリ、共有名などが管理テーブル1000に登録されて、ストレージデバイスがマウントされる。

【0089】

図17は、ストレージデバイスの設定や管理を行う為にクライアントが備えるアプリケーションの表示画面の一例を示す図である。

【0090】

図17において、ユーザがプリントサーバ100のIPアドレス1401を指定して接続情報取得ボタン1402をクリックすると、接続ストレージ一覧1403にプリントサーバ100に接続されているストレージデバイスの共有名が一覧表示される。

【0091】

接続ストレージ一覧1403の中から選択されたデバイス（図中の反転表示されたもの）について、ストレージ情報1404の欄に、Vendor名、Product名、Disk名、ストレージデバイスの状態（OK/エラーの区別、エラー時にその内容を表示してもよい）、シリアルナンバ、及び接続ポート名等の情報が表示される。なお、ここで表示されるストレージデバイスの状態については、クライアントがデバイスと直接通信して取得する。その他の情報については管理テーブル1000に予め登録しておいて呼び出すようにしてもよいし、ストレージデバイスの状態に関する情報と同様にクライアントがデバイスと直接通信して取得してもよい。共有設定1405の欄では、共有ディレクトリのアクセスの種類を設定することができる。アクセスの種類には、例えば、読取専用、フルアクセス、及びパスワードに応じて読取専用とフルアクセスとを切り換えるものがある。これらの設定情報、パスワード等も管理テーブル100で管理するようにしてもよい。

【0092】

アンマウントボタン1406は、マウントされたストレージデバイスをプリントサーバ100から取り外す際に操作するボタンである。このボタンがクリックされると、他のクライアントからのアクセスの有無を判別して、アクセス中でなければ、所定の切断処理を行った後、ストレージデバイスの取り外しが完了する。一方、アクセス中であれば警告後に終了する。プリントサーバ100本体に備えられたフッシュスイッチ107を所定時間押下することでも同様の処理が実行される。

【0093】

プリントサーバ100は、ストレージデバイスが接続されたストレージサーバとして機能するためには、ファイルの更新日時を記録するための時刻情報を保持している必要がある。このとき、プリントサーバ100がリアルタイムクロックやバックアップ電池等を備えることで、常時時刻情報を保持するようにしてもよいが、これらを備えることなく、電源投入などのタイミングでネットワーク等より時刻情報を取得するようにしてもよい。

【0094】

図18は、クライアントに表示される時刻設定ダイアログを示す図である。本ダイアログは、プリントサーバ100内のアプリケーションによりクライアント側に表示される画面である。

【0095】

図18において、「時刻の自動設定機能を使用する」のチェックボックスが有効の場合には、プリントサーバ100は電源投入時、或いは所定周期で時刻情報取得要求をブロードキャストする。プリントサーバ100からの要求をクライアントが受信して応答を返すことで時刻情報が取得できる。なお、複数のクライアントから応答があった場合には、プリントサーバ100は最も早く受信した有効な時刻取得応答を使用して自身の時刻設定を行う。「時刻の自動設定機能を使用する」のチェックボックスが無効の場合には、本ダイアログにおいて手動でのみ時刻設定を行うことができる。

10

20

30

40

50

【0096】

プリントサーバ100が、ストレージデバイスが接続されたストレージサーバとして機能する場合、クライアントより送信された印刷ジョブをストレージデバイスにスプール（一時保存）すること、クライアントを早期に解放することができる。また、内蔵メモリが少ない等の印刷処理能力の劣るプリンタの機能補完が可能となる。この場合、スプール有り／無しの設定をユーザが手動で切り換えるようにしてもよいし、ストレージデバイスが接続されているか否かをプリントサーバ100が検出して自動的に切り換えるようにしてもよい。また、プリンタ毎やクライアント毎にスプール有り／無しを設定できるようにすることも考えられる。

【0097】

上記本発明の実施の形態によれば、アドホックモード、インフラストラクチャモード、有線プリントサーバモード、及び無線LANアクセスポイントモード等によるネットワークシステムにおいて、プリンタ804やハードディスク825等の各種デバイスとUSBにより接続し、当該接続された各種デバイスをネットワークシステム上の複数のクライアント801等で共有可能に設定するので、複数のデバイスを低コストで簡単にネットワークに接続することができ、当該デバイスをネットワーク上のクライアントで容易に共有することができる。

【0098】

また、接続ケーブルの挿抜や繋ぎ替え、電源のオン／オフ等により、プリントサーバ100とプリンタ804等との接続状態（接続ポート名など）が変化した場合であっても、その接続状態の変化により生じる面倒な設定変更等をユーザに行わせることなく、プリンタ804等のデバイスを継続して使用することができる。

【0099】

本発明は、上述した実施の形態の機能を実現するソフトウェアのプログラム（図8のフローチャートに対応するプログラム）を、コンピュータ又はCPUに供給し、そのコンピュータ又はCPUが該供給されたプログラムを読み出して実行することによっても本発明の目的が達成されることは云々までもない。

【0100】

この場合、上記プログラムは、該プログラムを記憶した記憶媒体から直接、又はインターネット、商用ネットワーク、若しくはローカルエリアネットワーク等に接続された不図示の他のコンピュータやデータベース等からダウンロードすることにより供給される。

【0101】

また、上記プログラムは、上述した実施の形態の機能をコンピュータで実現することができるように、その形態は、オブジェクトコード、インタプリタにより実行されるプログラム、OSに供給されるスクリプトデータ等の形態を有するものでよい。

【0102】

更にまた、上述した実施の形態の機能を実現するソフトウェアのプログラムを記憶した記憶媒体をコンピュータに供給し、そのコンピュータ又はCPUが該記憶媒体に格納されたプログラムを読み出して実行することによっても、本発明の目的が達成されることは云々までもない。

【0103】

上述した実施の形態では、プログラムはROM102に格納されているが、これに限定する必要はなく、プログラムを供給する記憶媒体としては、例えば、RAM、NVRAM、ハードディスク、フレキシブルディスク、光ディスク、光磁気ディスク、MO、CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD-RAM、DVD-RW、DVD+RW、磁気テープ、不揮発性のメモ리카ード、他のROM等の上記プログラムを記憶できるものであればよい。

【0104】

【発明の効果】

以上詳細に説明したように、請求項1記載の装置及び請求項10記載の方法によれば、第

10

20

30

40

50

1の接続手段に接続されたネットワーク上の端末と第2の接続手段に接続されたデバイスとの接続を所定の管理テーブルに基づいて制御するので、複数のデバイスを低コストで簡単にネットワークに接続することができ、当該デバイスをネットワーク上の端末で容易に共有することができる。

【0105】

請求項2記載の装置及び請求項11記載の方法によれば、デバイスが第2の接続手段に接続されたときは、当該接続されたデバイスに関するデバイス情報を取得し、取得したデバイス情報に基づいて所定の管理テーブルへの情報の登録及び所定の管理テーブルに登録された情報の更新の少なくとも1つを行うので、接続ケーブルの挿抜や繋ぎ替え、電源のオン/オフ等により、ネットワーク装置とデバイスとの接続状態が変化した場合であっても、その接続状態の変化をユーザに意識させることなく、当該デバイスを継続して使用することができる。

10

【0106】

請求項4記載の装置及び請求項18記載の方法によれば、所定の管理テーブルに基づいて接続に必要な設定を実行するので、接続に必要な設定を行わずに済み、専門的な知識のないユーザの負担を軽減することができる。

【0107】

請求項5記載の装置及び請求項14記載の方法によれば、接続に必要な設定には、ネットワーク上の端末にデバイスのデバイスドライバをインストールすることを含むので、請求項4記載の装置及び請求項18記載の方法による効果を確実に奏することができる。

20

【0108】

請求項6記載の装置及び請求項15記載の方法によれば、デバイスのうち記憶手段を有するものが第2の接続手段に接続されたときは、当該記憶手段を第1の接続手段に接続されたネットワーク上の端末で共有可能に設定するので、ネットワーク上でハードディスク等のデバイスを低コストで、且つ簡単な設定で共有することができる。

【0109】

請求項9記載の装置及び請求項18記載の方法によれば、デバイスのうち印刷機能を有するものと記憶手段を有するものとが接続されたときは、ネットワーク上の端末より受信したデータを記憶手段に一時格納するので、印刷機能を有するデバイス、即ち印刷装置の機能を補完することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態に係るネットワーク装置のハードウェア構成を示すブロック図である。

【図2】図1のネットワーク装置の外観図である。

【図3】図1のプリントサーバ100を含むアドホック(AdHoc)モードによるシステムの一例を示す構成図であり、(a)はプリントサーバにプリンタを1台接続した場合、(b)はプリンタを2台接続した場合を示す。

【図4】図1のプリントサーバ100を含むアドホック(AdHoc)モードによるシステムの一例を示す構成図であり、(a)はプリントサーバ100に異なるデバイスを2台接続した場合、(b)はUSBハブを介して複数のデバイスを接続した場合を示す。

40

【図5】図1のプリントサーバ100を含むインフラストラクチャ(Infrastructure)モードによるシステムの一例を示す構成図である。

【図6】図1のプリントサーバ100を含む有線プリントサーバモードによるシステムの一例を示す構成図である。

【図7】図1のプリントサーバ100を含む無線LANアクセスポイントモードによるシステムの一例を示す構成図である。

【図8】図1のプリントサーバ100におけるデバイス認識処理を示すフローチャートである。

【図9】図8の処理におけるポート名の付与規則を示す図である。

【図10】図1のプリントサーバ100における管理テーブルの構成例を示す図である。

50

【図 1 1】図 1 0 の管理テーブル 1 0 0 0 の更新状態を示す図であり、(a) は管理テーブル 1 0 0 0 の初期状態を示し、(b) は初期状態からポート 1 に 2 ポートハブが接続された場合を示す。

【図 1 2】図 1 0 の管理テーブル 1 0 0 0 の更新状態を示す図であり、(c) は初期状態からポート 1, 2 にプリンタ 1, 2 がそれぞれ接続された場合を示し、(d) は図 1 2 (c) の状態からプリンタ 1, 2 を互いに差し替えた場合を示す。

【図 1 3】図 1 0 の管理テーブル 1 0 0 0 の更新状態を示す図であり、(e) は図 1 2 (c) の状態からプリンタ 2 をハードディスク 1 に差し替えた場合を示し、(f) は図 1 2 (c) の状態からポート 2 に 2 ポートハブを介してプリンタ 2, 3 を接続した場合を示す。

10

【図 1 4】図 1 0 の管理テーブル 1 0 0 0 の更新状態を示す図である。

【図 1 5】図 1 0 の管理テーブル 1 0 0 0 を用いたクライアントからデバイスのアクセス方法を示す図である。

【図 1 6】図 1 5 でプリンタの選択を行うときにクライアント 3 0 3 に表示される画面の一例を示す図である。

【図 1 7】ストレージデバイスの設定や管理を行う為にクライアントが備えるアプリケーションの表示画面の一例を示す図である。

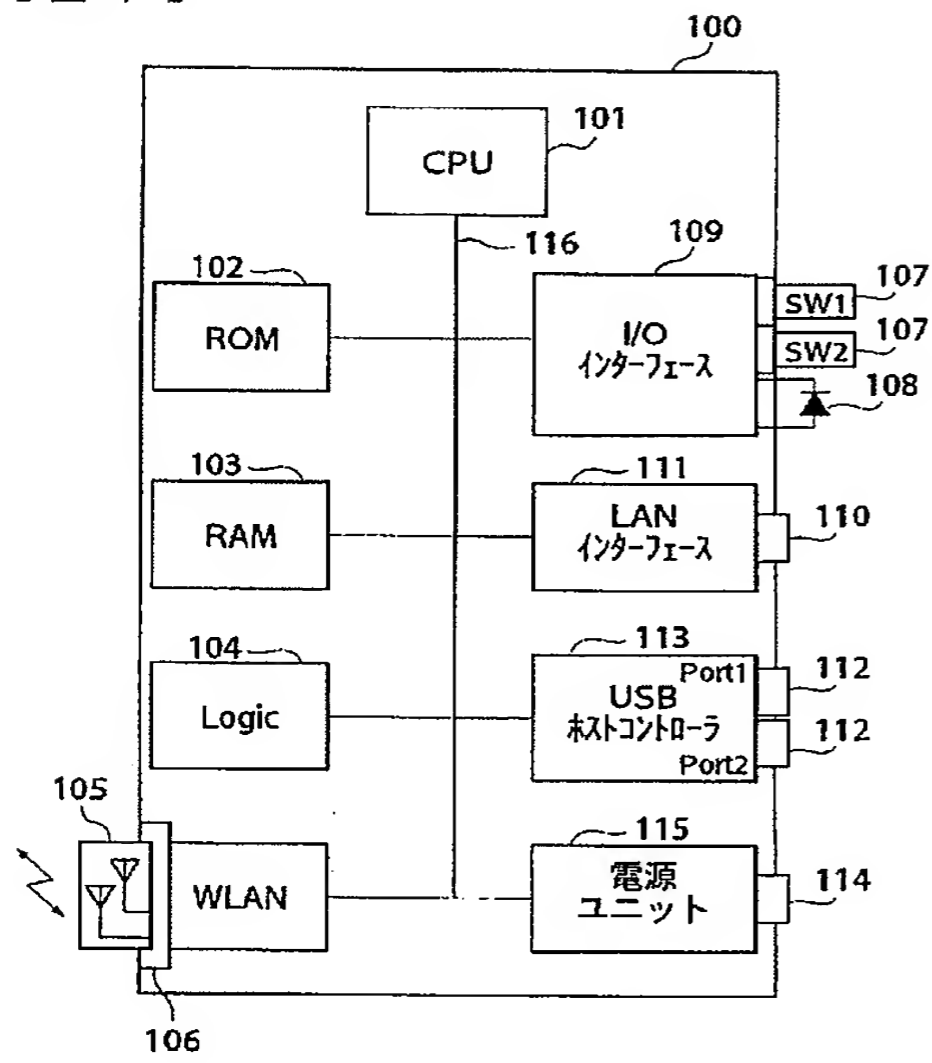
【図 1 8】クライアントに表示される時刻設定ダイアログを示す図である。

【符号の説明】

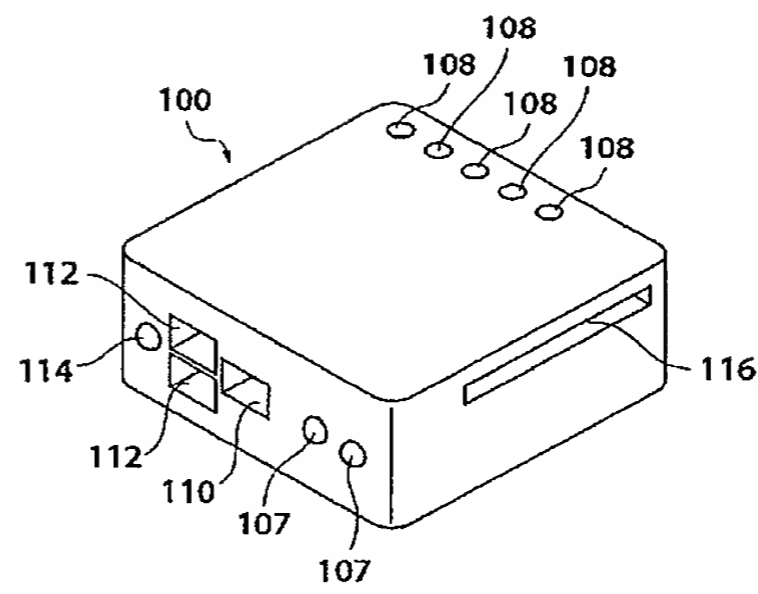
1 0 0 フリントサーバ
1 0 1 C P U
1 0 5 無線 L A N カード
1 0 6 カードスロット
1 1 1 L A N インターフェース
1 1 2 U S B ポート
1 1 3 U S B ホストコントローラ
3 0 1, 3 0 2, 3 0 3 クライアントコンピュータ
3 0 4, 3 0 5 プリンタ

20

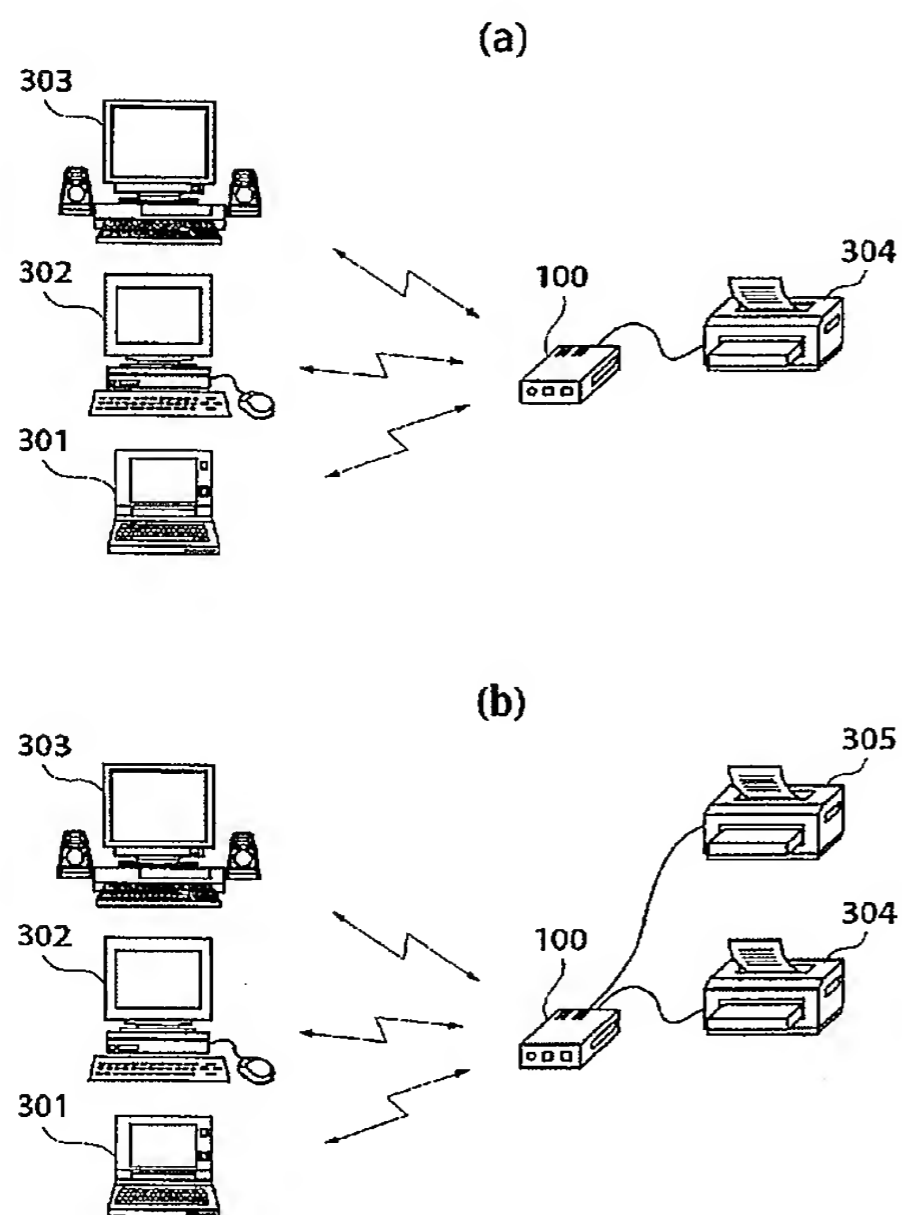
【図 1】



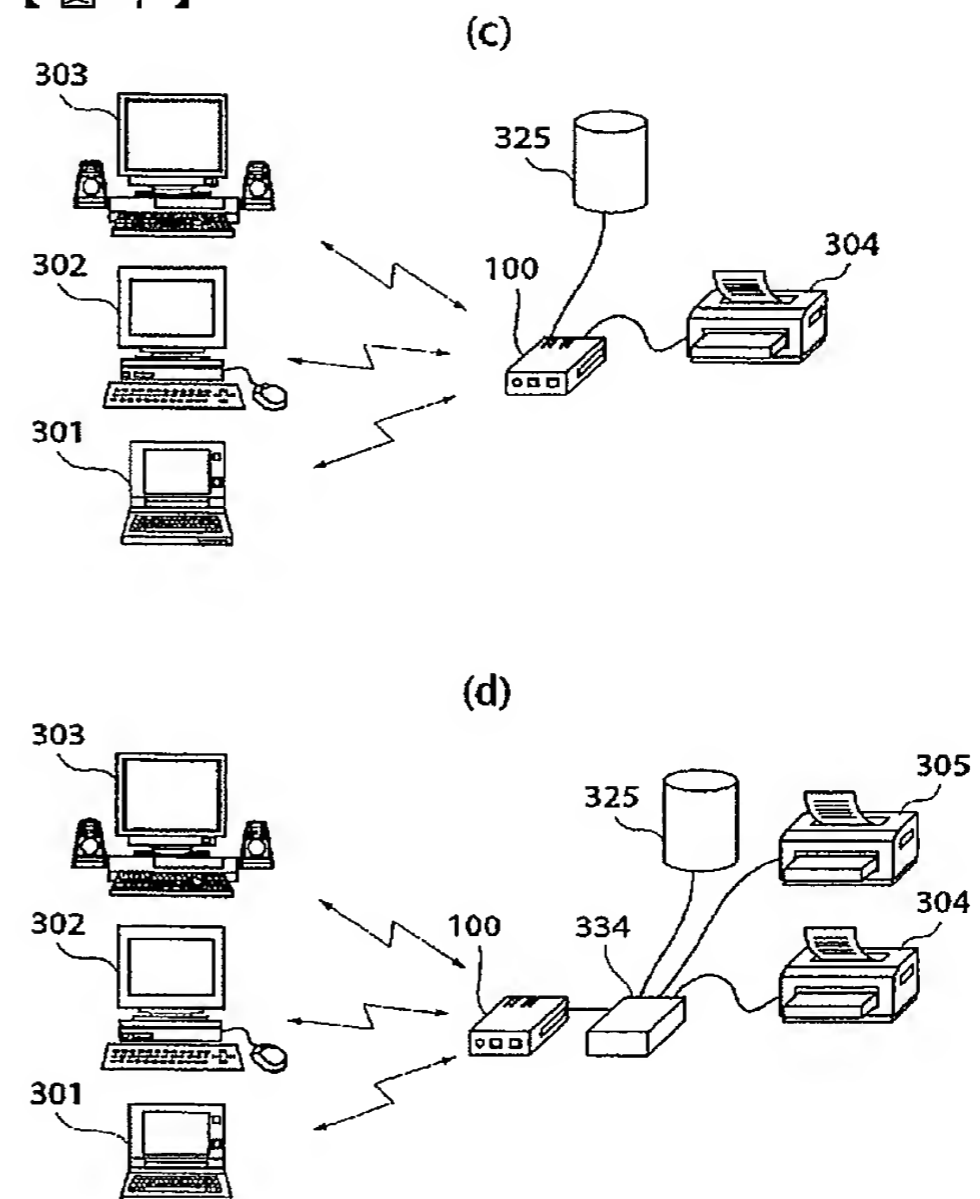
【図 2】



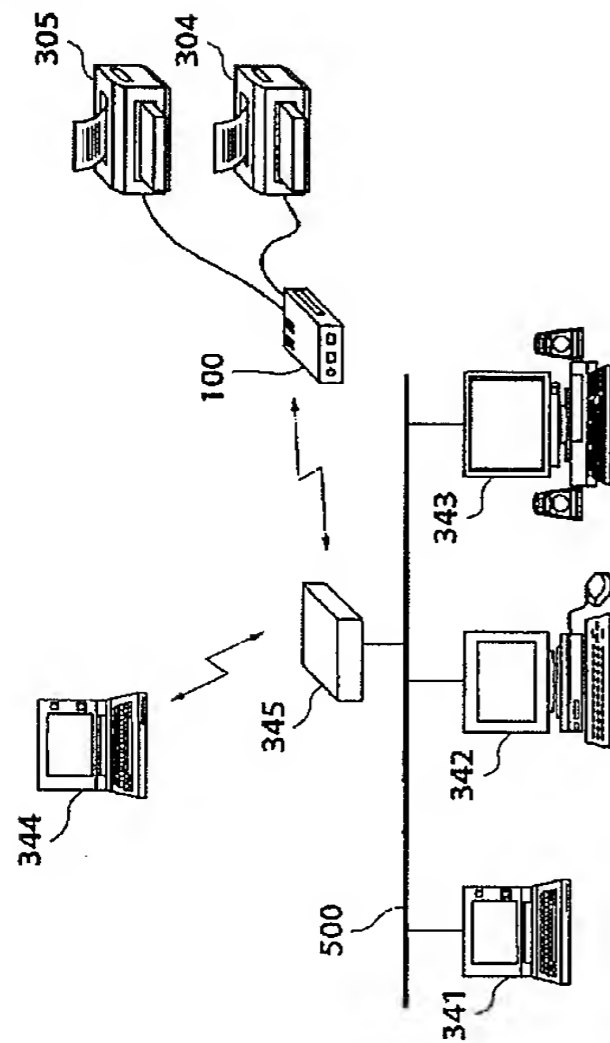
【図 3】



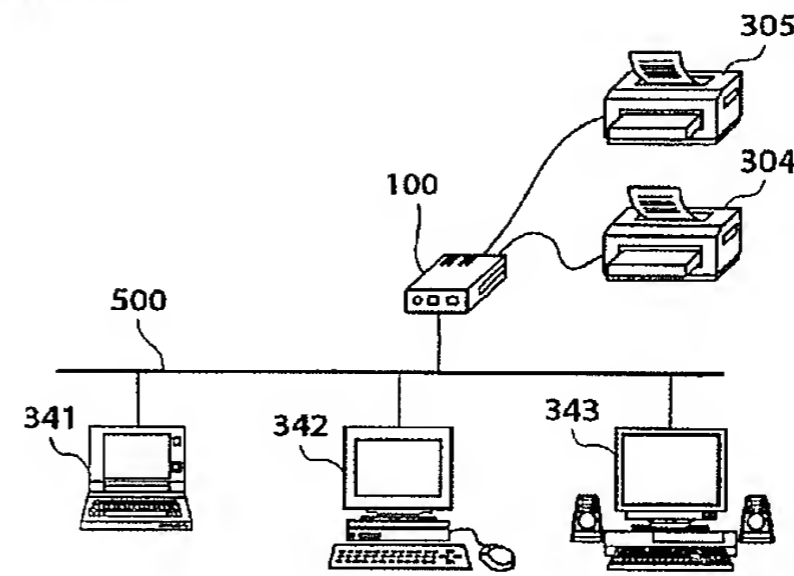
【図 4】



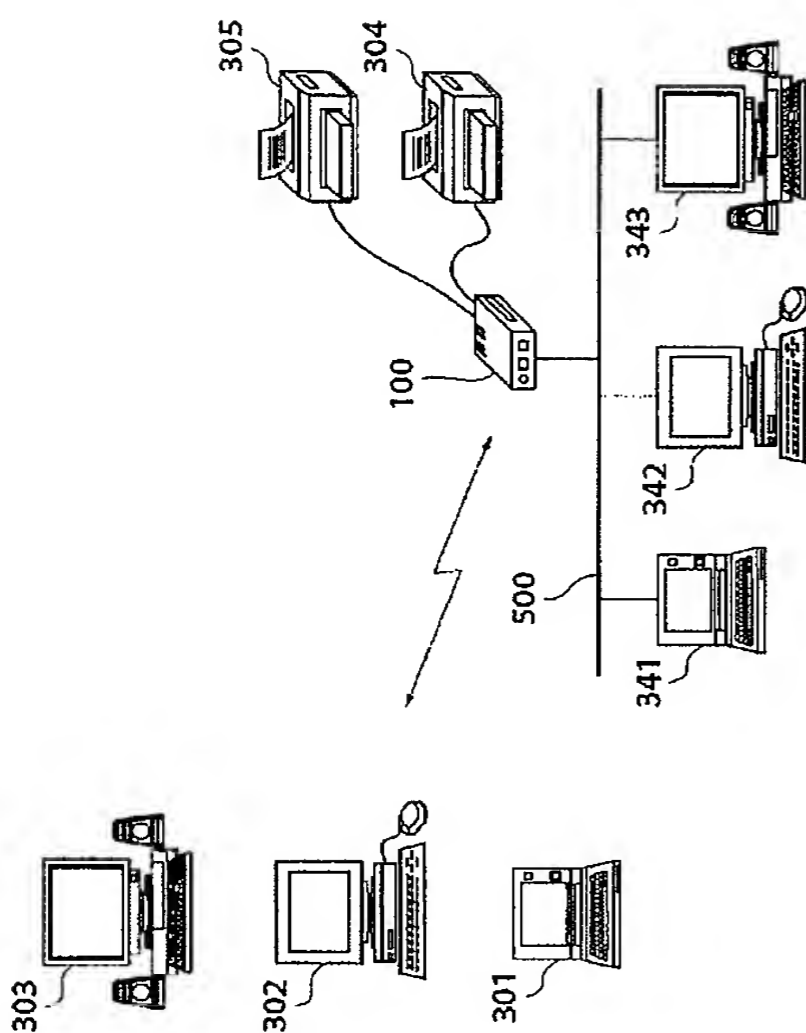
【図 5】



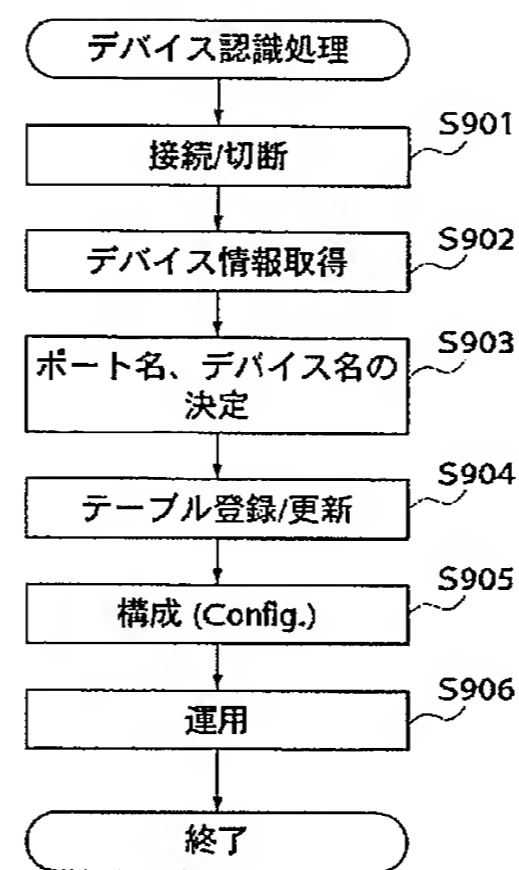
【図 6】



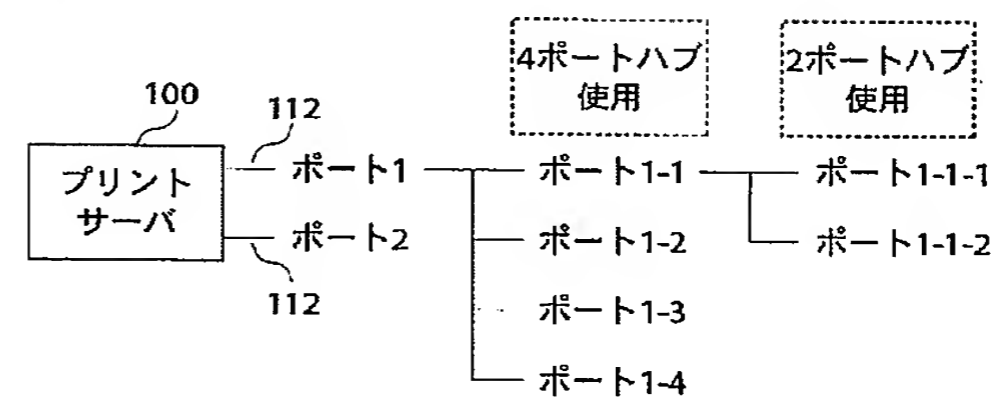
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

1001	index	ポート名	モデル名	デバイス名	その他
0	0	ポート1	プリンタ1	/dev/usb/xxx0	
1	1	ポート2	プリンタ2	/dev/usb/xxx1	
max					

1000

【図 11】

(a)	index	ポート名	モデル名	デバイス名	その他
0	ポート1				
1	ポート2				
max					

1000

(b)	index	ポート名	モデル名	デバイス名	その他
0	ポート1-1				
1	ポート1-2				
2	ポート2				
max					

1000

【図 12】

(c)	index	ポート名	モデル名	デバイス名	その他
0	ポート1	プリンタ1	/dev/usb/xxx0		
1	ポート2	プリンタ2	/dev/usb/xxx1		
max					

1000

(d)	index	ポート名	モデル名	デバイス名	その他
0	ポート1	プリンタ2	/dev/usb/xxx0		
1	ポート2	プリンタ1	/dev/usb/xxx1		
max					

1000

接続ポートが変わる

【図 13】

(e)	index	ポート名	モデル名	デバイス名	その他
0	ポート1	プリンタ1	/dev/usb/xxx0		
1	ポート2	HDD1	/dev/usb/yyy0		
max					

1000

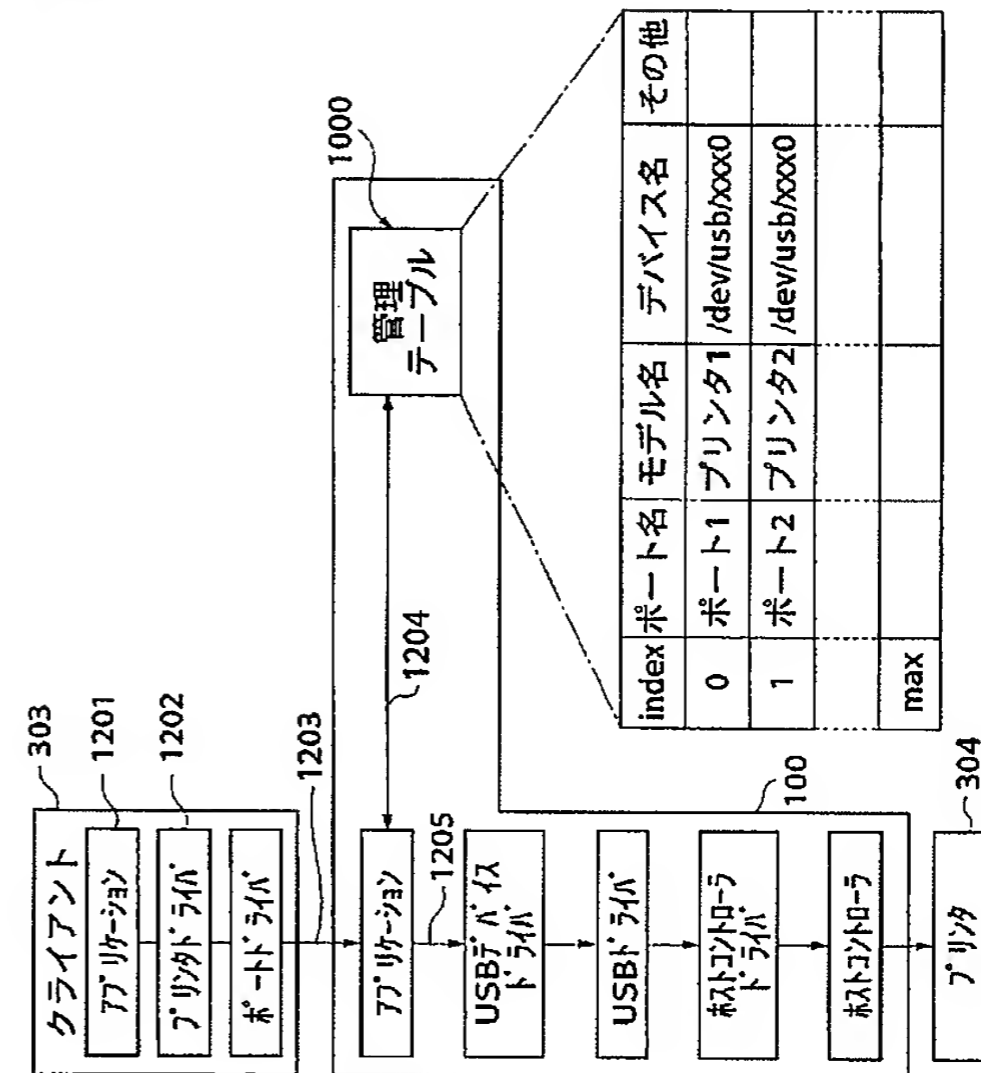
(f)	index	ポート名	モデル名	デバイス名	その他
0	ポート1	プリンタ1	/dev/usb/xxx0		
1	ポート2-1	プリンタ2	/dev/usb/xxx1		
2	ポート2-2	プリンタ3	/dev/usb/xxx2		
max					

1000

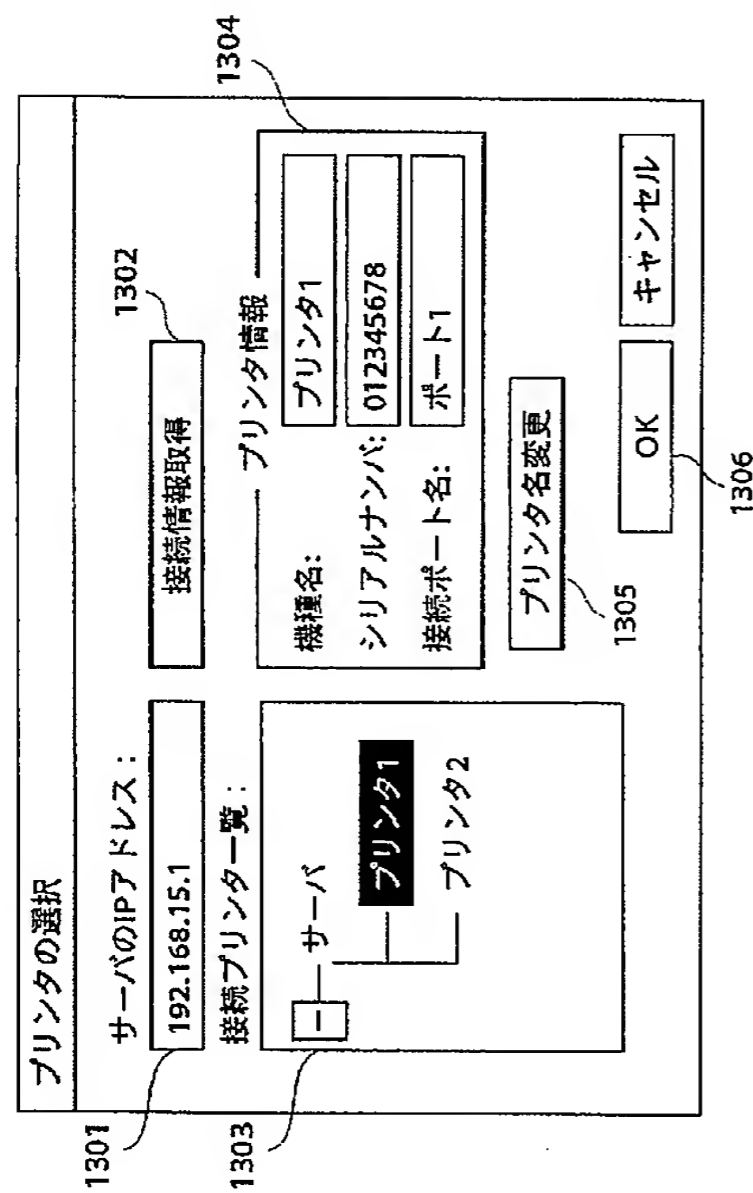
【図 14】

index	ポート名	モデル名	デバイス名	その他
0	ポート1	プリンタ1	/dev/usb/xxx0	
1	ポート2	プリンタ2	/dev/usb/xxx1	
2	ポート2	スキャナ1	/dev/usb/aaa0	
3	ポート2	FAX1	/dev/usb/bbb0	
max				

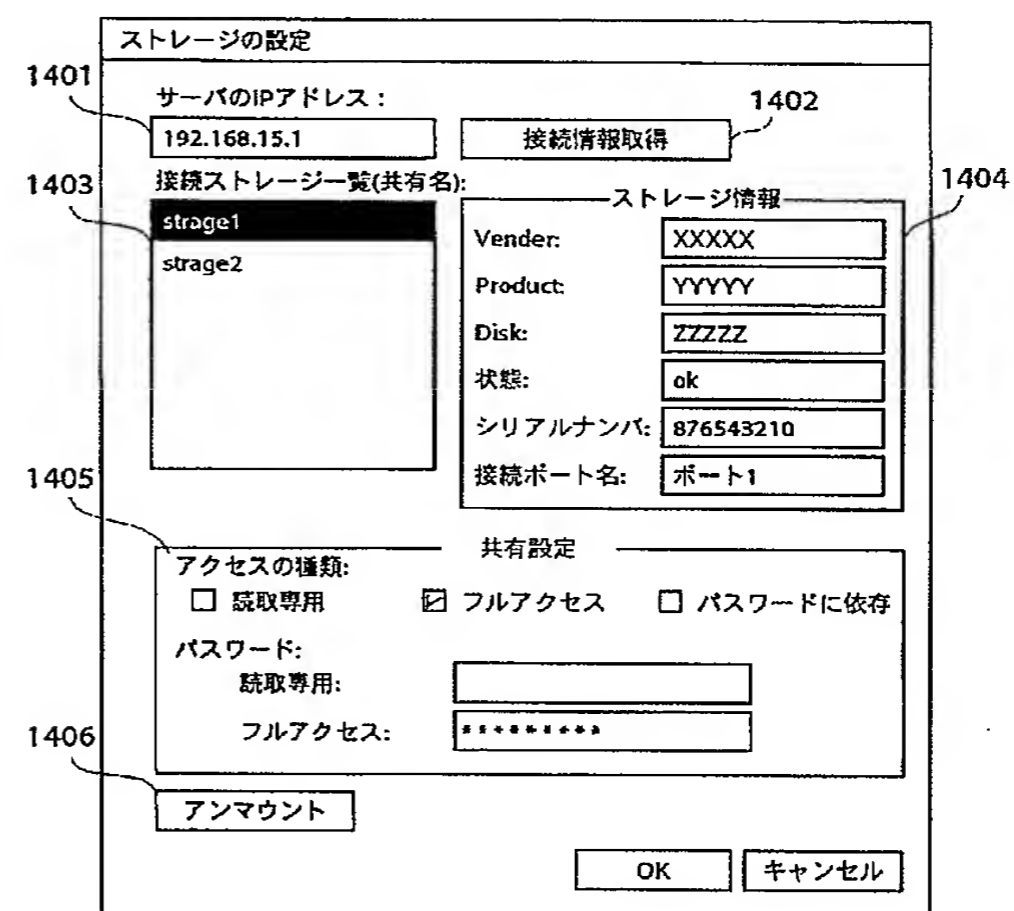
【図 15】



【図 16】



【図 17】



【図 18】

時刻設定	
<input checked="" type="checkbox"/> 時刻の自動設定機能を使用する	
サーバの現在時刻:	2002/8/1 09:59:15
新しく設定する時刻:	2002/8/1 10:00:00
<div>OK</div> <div>キャンセル</div>	